

|                           |  |               |   |
|---------------------------|--|---------------|---|
| 1. 科目名 ( 単位数 )            | 教師論 ( 初等 ) ( 2 単位 )  | 3. 科目番号       | EDTE1102  |
| 2. 授業担当教員                 | 曾根原 和明   |               |   |
| 4. 授業形態                   | 講義、事例研究 ( グループワーク )、演習 ( 論作文 )、発表  | 5. 開講学期       | 春期  |
| 6. 履修条件・他科目との関係           | 本科目は、「教育の基礎的理解に関する科目」に位置づけられる必修科目であり、教育職員免許状取得を目指す学生にとっては必修である。ただし、教育職員免許状を取得しない場合は選択科目となる。本科目は、教職の意義、教師の役割、専門性、職務内容および教師としての資質・能力について理論的に学ぶ導入的科目である。そのため、原則として初年次または教職課程の早い段階で履修することが望ましい。  |               |   |
| 7. 講義概要                   | 今日の学校教育が抱える様々な課題を解決する上で、その主たる担い手である教員の役割や責任は極めて大きい。これからの教員は、教科・科目に関する知識を教授するだけでなく、広い視野に立ち、思いやりのある人間性豊かな子どもたちを育成することが求められている。現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教師の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。   |               |   |
| 8. 学習目標                   | 1. 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解し、説明が出来るようになる。<br>2. 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解し、態度化できる。<br>3. 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解し、説明できる。   |               |   |
| 9. アサイメント ( 宿題 ) 及びレポート課題 | 本科目では、毎回の事前学習 ( 体験の振り返り )、学習目標に照らした自己評価、演習 ( ワーク ) への取り組みを通して、自分の体験と学んだ理論を結び付けながら考えを深めることを重視する。これらの学習記録と演習課題は、レポート課題 ( 第 8 回・第 12 回・第 15 回 ) につながる学修の過程として位置付ける。事前学習および事後課題の提出は、いずれも次回授業日の前々日までとする。  |               |   |
| 10. 教科書・参考書・教材            | 小川翔大・久野弘幸編『キャリアを支える教職入門 ワークで探るこれからの教師と学校』ナカニシヤ出版、2025 年。   |               |   |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法         | ○成績評価の規準<br>教職の意義や教員の役割・職務内容に関心を持ち、教員に求められる資質・能力、教育を支える法律上の規定などを理解し、説明ができる。<br>○評定の方法<br>・学習記録・演習課題 60%、レポート 20%、受講態度 20%とする。  |               |   |
| 12. 受講生へのメッセージ            | 本科目では、教育の基礎理論を学ぶだけでなく、自分の考えを言葉にし、他者と対話しながら思考を深める力を身につけることを重視します。これは、本学が掲げる「理論的・科学的思考力と実践的能力を統合」するための土台づくりにもつながる学びです。特に、次の姿勢を大切にしてください。<br>第一に、ICT を活用した協働的な学習への積極的な参加です。授業では、意見共有や協働作成などを通して、受講生同士で学びを深めます。対話を通して考えを発展させることは、本学が大切にしている「双方向対話型の教育方法」や「他者との対話を通して思考を発展させる」学びそのものです。こうした参加の姿勢は、成績評価にも反映されます。<br>第二に、自ら問いを立て、考え抜く姿勢です。教育に「正解」は一つではありません。事前・事後学習やレポート課題を通して、自分なりの考えを丁寧にまとめてください。これは将来、教育現場で「自ら課題を発見し、解決する力」を身につける基礎となります。<br>第三に、他者の意見を尊重し、誠実に議論する態度です。教育を学ぶことは、多様な価値観と向き合うことでもあります。本学が重視する「他者への思いやり」や「社会的責任感」にもつながる姿勢です。互いの立場を尊重しながら学ぶ姿勢を大切にしてください。 |               |   |
| 13. オフィスアワー               | 授業内 ( 初回授業 ) で周知する。  |               |   |
| 14. 授業展開及び授業内容            |  |               |   |
| 講義日程                      | 授業内容   | 学習課題          |   |
| 第 1 回                     | 第 I 部 教職の仕事を知る<br>テキスト「第 1 章 1.1 教育の目的」<br>・ワーク 1 「教師として大切にしたい姿」<br>( pp.154-155 )<br><br>教育とは何かを出発点に、教育が意図的な働きかけによって人を望ましい方向へ導く営みであることを理解する。教育基本法に定められた「人格の完成」と「平和で民主的な国家及び社会の形成者の育成」という目的を読み解き、学校教育法や学習指導要領との関係を通して公教育の仕組みを確認する。ワークを通して自らの教師像を振り返り、教育目的とのつながりを考える。   | 事前学習          | 体験の振り返り<br>これまで自分が受けてきた学校教育を振り返り、学校は何のためにある場所だと思えるかをまとめてください。   |
|                           | 事後学習   | 学習目標に照らした自己評価 |   |
| 第 2 回                     | テキスト「第 1 章 1.2 教員の仕事」<br><br>教員の仕事を、国家資格を有する専門職として理解する。授業だけでなく、生徒指導、保護者対応、学校行事や事務作業など多様な業務を担っていることを学ぶ。また、予想外の出来事にその都度判断して対応する必要があることや、やりがいと忙しさの両面があることについても考える。さらに、「情熱」「確かな指導力」「人としての力」といった求められる教員像を整理し、教師の役割を広い視野で捉える。  | 事前学習          | 体験の振り返り<br>これまで出会った教師を思い出し、授業以外にどのような仕事をしていたと思いますか。具体的に書いてください。 |
|                           | 事後学習   | 学習目標に照らした自己評価 |   |
| 第 3 回                     | テキスト「第 1 章 1.3 教員免許状と教職課程」「第 1 章 1.4 教員採用試験」   | 事前学習          | 体験の振り返り<br>教員になるまでにどのような資格・免許や手続きが必要だと思えるかをまとめてください。            |

|     |  |      |   |
|-----|--|------|---|
|     | <p>教員免許状の種類や取得方法を理解し、教職が法律にもとづく専門職であることを確認する。普通免許状の区分や教職課程コアカリキュラム、教育実習や教職実践演習の意義を学び、大学での学修がどのように教員免許取得につながるのかを整理する。また、公立・私立・国立附属学校の採用の仕組みや試験内容の特徴を知り、教員になるまでの道筋を具体的に理解する。</p>   | 事後学習 | 学習目標に照らした自己評価   |
| 第4回 | <p>テキスト「第1章 1.5 教員の信念と実践」<br/>・ワーク1「教師として大切にしたい姿」<br/>( pp.154-155 )</p> <p>教員がもつ信念(教育観・子ども観・授業観など)が、授業や指導のあり方にどのように影響するのかを学ぶ。信念は実践を方向づける一方で、体験を通して変化することもあることを理解する。また、信念と実践は常に一致するとは限らず、学校や自治体などの環境要因も影響することを考える。自分が大切にしたい教師像を言語化し、理想と現実を行き来しながら専門性を高めていく視点を養う。</p>   | 事前学習 | <p>体験の振り返り<br/>自分が「良い教師」と聞いて思い浮かべる人物像を挙げ、その理由を書いてください。</p>  |
|     |  | 事後学習 | 学習目標に照らした自己評価   |
| 第5回 | <p>テキスト「第2章 教師の義務と勤務条件」<br/>( 2.1 )<br/>・ワーク2「私の『成長曲線』を描こう」<br/>( pp.156-157 )</p> <p>日本国憲法第26条に示された「教育を受ける権利」と「教育を受けさせる義務」を出発点に、教育基本法の目的や原則を理解する。さらに、学校教育法や教育職員免許法などの関連法規がどのように体系づけられているかを整理し、学校制度や教員制度が法律にもとづいて運営されていることを学ぶ。教育法規を制約としてではなく、教育を支える枠組みとして捉える視点を養う。</p> | 事前学習 | <p>体験の振り返り<br/>「教育を受ける権利」という言葉について、これまでに意識した体験を振り返って書いてください。</p>  |
|     |  | 事後学習 | 学習目標に照らした自己評価   |
| 第6回 | <p>テキスト「第2章 教師の義務と勤務条件」<br/>( 2.2~2.5 )<br/>・ワーク3「地域や学校の『働き方改革』への取り組みを探そう」( pp.158-159 )</p> <p>教員が教育公務員として果たすべき役割や義務を理解する。あわせて、給与や勤務時間、休暇制度などの待遇の仕組みと現状を学び、働き方改革や処遇改善の動向について整理する。さらに、コンプライアンスの重要性を具体的事例を通して考え、専門職として求められる倫理観と責任について理解を深める。</p>                        | 事前学習 | <p>体験の振り返り<br/>これまで出会った教師の働き方を振り返り、「忙しそうだ」と感じた場面を具体的に書いてください。</p>   |
|     |  | 事後学習 | 学習目標に照らした自己評価   |
| 第7回 | <p>テキスト「第3章 3.1 学校組織と運営を考える」<br/>・ワーク4「学校と保護者・地域との連携」<br/>( pp.160-161 )</p> <p>学校運営の仕組みを理解し、教育活動が個々の教師の努力だけでなく、組織的・計画的な取り組みによって支えられていることを学ぶ。カリキュラム・マネジメントの考え方や「社会に開かれた教育課程」の理念を確認し、学校全体の目標と授業づくりがどのようにつながっているのかを整理する。あわせて、PDCAサイクルを通して教育活動を改善していく視点を養う。</p>           | 事前学習 | <p>体験の振り返り<br/>自分の通っていた学校の目標や特色として印象に残っていることを一つ挙げてください。</p>   |
|     |  | 事後学習 | 学習目標に照らした自己評価   |
| 第8回 | <p>テキスト「第3章 3.2 学校のなかの組織としくみ」「第3章 3.3 地域と学校の関係」</p> <p>学校の中でどのような人々が役割を分担し、組織として学校が運営されているのかを理解する。あわせて、地域や保護者との連携の仕組みを学び、学校が社会の中に位置づく公共的な存在であることを考える。これまで自分が学校で多くの人に支えられてきたことを振り返りながら、教師の仕事を広い視野で捉える力を養う。</p>  | 事前学習 | <p>体験の振り返り<br/>自分の学校生活を支えていた教師以外の人を一人挙げ、その役割を書いてください。</p>   |
|     |  | 事後学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習目標に照らした自己評価</li> <li>レポート課題①(第1部)</li> </ul> <p>第1回から第8回までで学んだ内容を踏まえて、「教師とはどのような仕事だと考えますか」について、あなたの考えをまとめてください。その際、教育の目的(人格の完成や社会の担い手の育成)と、自分が目指したい教師像を結び付けて述べてください。また、教師が法律にもとづく専門職であることや、学校が組織や地域と関わりながら成り立っていることにも触れながら、自分の体験やこれまでの学びを踏まえて具体的に書いてください。(1500字以内)</p> |
| 第9回 | <p>II 教師の資質・能力を知る<br/>テキスト「第4章 4.1 教師の力量」<br/>・ワーク5「リフレクション( ALCT モデ</p>   | 事前学習 | <p>体験の振り返り<br/>これまでに「自分が成長した」と感じた体験を一つ挙げ、その理由を書いてください。</p>  |

|      |   |      |   |
|------|---|------|---|
|      | ル)①」( pp.162-165 )<br>教師に求められる力量とは何かを学び、学び続ける専門職としての姿を理解する。不易と流行の両面から教師の資質を捉え、学校知と実践知の違いを知る。さらに、熟達化や正統的周辺参加、反省的実践家の考え方を通して、教師が実践の中でどのように成長していくのかを考える。ワークでは、自分のこれまでの成長を振り返り、将来どのような教師として成長していきたいかを言語化する。   | 事後学習 | 学習目標に照らした自己評価   |
| 第10回 | テキスト「第4章 4.2 教師の研究と修養」<br>・ワーク6「リフレクション( ALCTモデル)②」( pp.166-168 )<br><br>教師が学び続けるための研修の仕組みを理解し、省察と実践研究の意義を考える。校内研修やOJT、法定研修、大学院での学びなど、さまざまな研修の形を知り、教師がどのように専門性を高めていくのかを学ぶ。特にALACTモデルを手がかりに、自らの実践を振り返り、課題を見だし、次の行動につなげる省察の方法を理解する。体験を単なる体験で終わらせず、言語化し理論と結びつける力を養う。                                   | 事前学習 | 体験の振り返り<br>過去に失敗やうまくいかなかった体験の一つ挙げ、その後どのように振り返りましたか。書いてください。   |
|      |   | 事後学習 | 学習目標に照らした自己評価   |
| 第11回 | テキスト「第5章 教師としての自己と生活」<br>・ワーク7「自分の『性格的な強み』を見つけて活用しよう」( pp.169-171 )<br><br>教師としての自己がどのように形成されていくのかを学び、初任者が直面しやすい課題や葛藤について理解する。理想と現実の間で揺れ動く体験を通して、教師アイデンティティが形づくられていくことを考える。ワークでは、自分の性格的な強みに目を向け、それをどのように教師の専門性の形成につなげていくかを検討する。自己理解を深めることが、安定した教員生活と成長の基盤となることを理解する。                                | 事前学習 | 体験の振り返り<br>過去に失敗やうまくいかなかった体験の一つ挙げ、その後どのように振り返りましたか。書いてください。   |
|      |   | 事後学習 | 学習目標に照らした自己評価   |
| 第12回 | テキスト「第6章 教師のメンタルヘルス」<br>・ワーク8「ブレイン・ストーミングによる問題解決」( pp.172-174 )<br>・ワーク9「認知再構成法」( pp.175-177 )<br><br>教師の仕事に伴うストレスの特徴を理解し、ストレスモデルにもとづいてその仕組みを学ぶ。児童生徒や保護者、同僚との関係、多忙な業務などが心身に与える影響を考えるとともに、セルフケアの方法や相談体制の活用について具体的に理解する。また、個人の努力だけでなく、学校組織としての支援体制や働き方改革の重要性を確認する。持続可能な教職の在り方を考え、長く健やかに働き続けるための視点を養う。 | 事前学習 | 体験の振り返り<br>強いストレスを感じた体験の一つ挙げ、そのときの自分の反応を振り返ってください。  |
|      |   | 事後学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習目標に照らした自己評価</li> <li>レポート課題②(第11部)</li> </ul> 第9回から第12回までで学んだ内容を踏まえて、「学び続ける教師になるために大切だと考えること」について、あなたの考えをまとめてください。その際、教師に求められる力量(不易と流行)、省察の重要性( ALACTモデルなど)、教師としての自己形成、メンタルヘルスの視点を関連付けながら述べてください。また、自分のこれまでの体験や性格的な強みを踏まえ、将来どのように成長していきたいかを具体的に書いてください。(1500字以内) |
| 第13回 | III 公教育の動向を知る<br>テキスト「第7章 日本の学校教育をみつめる歴史的視座」<br><br>江戸時代から近代、戦後に至るまでの学校教育と教師像の変遷を学ぶ。時代ごとに求められてきた教師の役割や授業観の違いを理解し、現代の教師像を歴史の流れの中で相対的に捉える視点を養う。教育の「いま・ここ」を深く理解するために、過去からの時間軸を踏まえて考える意義を確認する。歴史を学ぶことを通して、流行に流されない確かな視野をもち、未来の教育を構想する力を育てる。   | 事前学習 | 体験の振り返り<br>家族や身近な人から聞いた昔の学校の話の一つ挙げ、今との違いを考えてください。   |
|      |   | 事後学習 | 学習目標に照らした自己評価   |
| 第14回 | テキスト「第8章 現代社会と学校教育(1) -未来を拓く教育」<br>・ワーク11「学校教育で育てたい資質・能力」( pp.180-181 )<br>・ワーク12「『考える』に焦点化した授業づくり」( pp.182-184 )<br><br>「生きる力」の理念を基盤に、ICTの活用や多様性への対応など、現代社会が学校に求める課題を整理する。社会の急速な変化を踏まえ、これからの子どもに必要な資質・能力とは何かを考える。デジタル化の進展や価値観の多様化の中で、教師がどのように学び続け、教育を創造していくかを検討する。変化                               | 事前学習 | 体験の振り返り<br>ICTや多様な価値観に触れた体験の一つ挙げ、そのとき感じたことを書いてください。   |
|      |   | 事後学習 | 学習目標に照らした自己評価   |

|      |   |      |  |
|------|---|------|--|
|      | する社会に应答する教師像を描き、未来を見  |      |  |
| 第15回 | <p>テキスト「第9章 現代社会と学校教育(2)<br/>-子どもの多様化・複雑化」<br/>・ワーク13「多様性の理解」(pp.185-186)</p> <p>現代の子どもを取り巻く環境の変化に目を向け、多様化・複雑化する子どもの実態を理解する。家庭環境や文化的背景、発達の特徴などの違いを踏まえ、人を理解するとはどういうことかを考える。自分とは異なる立場や体験をもつ子どもを想像し、多様性を前提とした関わり方を学ぶ。ワークでは、自身のものの見方を振り返り、多様性を尊重する教師の在り方について具体的に考察する。</p> | 事前学習 | <p>体験の振り返り<br/>自分とは異なる背景や考えをもつ人と関わった体験を一つ挙げ、そのとき感じたことを書いてください。</p>   |
|      |   | 事後学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習目標に照らした自己評価</li> <li>● レポート課題③(第III部)<br/>第13回から第15回までで学んだ内容を踏まえて、「これからの時代に求められる教師とはどのような存在だと考えますか」について、あなたの考えをまとめてください。その際、歴史的な教師像の変遷を踏まえて現代を相対的に捉える視点、「生きる力」やICT活用などの現代的課題、そして子どもの多様化・複雑化への対応を関連付けて述べてください。また、多様な子どもを理解しようとする姿勢の大切さにも触れながら、これからの社会において自分はどのような教師を目指したいかを具体的に書いてください。</li> </ul> |
| 期末試験 |   |      |  |